

# めぐみイエス・キリスト教会

2025年3月30日(日)第五主日礼拝

午前10時より

週報「通算第752号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌420「雨を降り注ぎ」 p. 676

【交読文】 No.52 ルカの福音書1章(抜粋) p. 921

【賛美Ⅱ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章10節 (p. 131上段右側)

【礼拝説教】 《十二弟子の帰還》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所 ルカの福音書9章10節

9:10 さて、使徒たちは帰って来て、自分たちがしたことをすべて報告した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。

### ●ポイント1. 主イエスが言われた約束と注意点とは？

#### ※マタイの福音書10章5節～16節「十二弟子の派遣」(新約p.17下段)

10:5 イエスはこの十二人を遣わす際、彼らにこう命じられた。「異邦人の道に行ってはいけません。また、サマリア人の町に入ってはいけません。

10:6 むしろ、イスラエルの家の失われた羊たちの所に行きなさい。  
10:7 行って、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。  
10:8 病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツアラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを追い出しなさい。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。  
10:9 胴巻に金貨も銀貨も銅貨も入れて行ってはいけません。  
10:10 袋も二枚目の下着も履き物も杖も持たずに、旅に出なさい。働く者が食べ物を得るのは当然だからです。  
10:11 どの町や村に入っても、そこでだれがふさわしい人かをよく調べ、そこを立ち去るまで、その人の所にとどまりなさい。  
10:12 その家に入るときには、平安を祈るあいさつをしなさい。  
10:13 その家がそれにふさわしければ、あなたがたの祈る平安がその家に来るようにし、ふさわしくなければ、その平安があなたがたの所に返って来るようにしなさい。  
10:14 誰かがあなたがたを受け入れず、あなたがたの言葉に耳を傾けないなら、その家や町を出て行く時に足のちりを払い落とすなさい。  
10:15 まことに、あなたがたに言います。さばきの日には、ソドムとゴモラの地のほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。  
10:16 いいですか。私は狼の中に羊を送り出すようにして、あなたがたを遣わします。ですから、蛇のように賢く、鳩のように素直でありなさい。」

## ●ポイント2. ベツサイダとは？

■ベツサイダ ギリシャ語で「漁師の家」という意味のアラム語を音訳した地名。イエスの最初の弟子となった漁師アンデレ、シモン・ペテロ、ピリポの故郷であるガリラヤの町。そこで主イエスは盲人をいやした。五千人の給食が行われた場所にも近かった。

## ●ポイント3. 主イエス様の約束とは？

※マタイの福音書6章31節～34節「山上の垂訓から」(新約p.11上段)

## ◎先週のメッセージ【領主ヘロデと主イエス】

《ルカは、領主ヘロデ・アンティパスについて書き記しています。アンティパスとは、主イエスが公生涯を送られた頃のガリラヤとペレヤの国主であり、ヘロデ大王の第四の妻マルタケの息子にあたります。

さて、十二使徒たちの働きは、大きな収穫をもたらし、ユダヤの様々な町や村において、病人がいやされ、悪霊が追い出されたことは、瞬く間にエルサレムにまで、とどろき渡りました。特に、領主アンティパスは、この出来事について、最も当惑していた者の一人でした。

「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ」と、ある人は言っていたことから、この時すでに、バプテスマのヨハネは殉教していました。

マタイの福音書によりますと、それは、アンティパスの誕生祝いに、宮殿において催された祝宴の時に起こった出来事で、妻ヘロディアにそそのかされて、アンティパスは、ヨハネを殺害したのです。また、アンティパスは、主イエスに会って見たいと思っていたとあります。

この時から三年後に、父なる神様は、彼の願いを聞き入れます。最高法院に訴えられて来た主イエスを、ポンテオ・ピラトは、アンティパスの元に送ります。アンティパスは主イエスを見ると、非常に喜びました。しかし、彼がいろいろと質問したにもかかわらず、主イエスは何もお答えになりません。ここに、きらびらやかな王服に身を包み、高い王座から主イエスを見下ろしている、この世の王ヘロデ・アンティパス。そして、ムチ打たれ、茨の冠をかぶらされ、心身ともボロボロで、かろうじて立っている主イエス。何と言う場面。そして何と言う対比。

しかし、アンティパスの前に立っているのは、王の王、主の主、創造主なる真の神様、救い主イエス・キリストなのです。そして、何時の日にか、この場面と真逆の席で、主イエスとアンティパスが再会する時がやって来ます。それが、「白い御座の裁き」であり、主イエスが裁き主として王座に座られ、アンティパスが被告席に立つのです。》

## ◎お知らせ

※次回は2025年4月6日午前10時より、通常通り行ないます。